

11 特集

2016年(平成28年)11月7日(月曜日)

新潟日報 (日刊)

第3種郵便物認可

グローバルにいがた

from
NY谷口 銀次朗さん
=魚沼市出身=

そのような背景の中、政治に関わらず、日頃いろいろな場面で意見を求められることがあります。その際等身大でシンプルに答えるよう意識しています。

(谷口さんは1991年生まれ。会計士をしています)

わせようとするどついつい迷つ

「自分の軸」を大切に



ワシントン初代大統領が就任演説を行ったニューヨークのフェラル・ホール

ワシントン初代大統領選が注目を浴びています。歴史が動く瞬間を見ようと、世界が关心を向けています。

ニューヨークでは政治に

関心を持つ若者が多い印象

を受けます。3回の公開討論を終え、バーティーの行く末について日夜議論する方、職場でも休憩時間にニュースをよく見かけます。

ニューヨークの会計事務所に勤務する前、私はアーヴィング州の大学にて学位を取得しました。州全体を通じて保守的な傾向が強く、根底では同じ意見を共有している方が多い印象を受けました。それに比べると、ニューヨーク都市圏郊外は人構成がアメリカ全土でも特異であり、多様性を尊重した文化から、常に革新な意見が飛び交います。

そのような背景の中、政

治に関わらず、日頃いろいろな場面で意見を求められることがあります。その際等身大でシンプルに答えるよう意識しています。

(谷口さんは1991年生まれ。会計士をしています)

新潟日報社が開設した米ニューヨーク(NY)、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をリポートしてもらいます。毎月第1月曜日に紹介しています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。



第1月曜掲載

6月はどちらでは冬だ。初めてのブラジルで印象に残っているのは、赤い地面と青い空、農場の人たちのたくましい笑顔そして寒さだ。

ブラジル音楽を勉強しようとサンパウロ市に出てきたのは20歳のときだ。ミュージシャンになり、演奏やレッスンをしながら暮らし

ている。この国で演奏するのには面

白いピアノでサンバを刻み始めると人々が反射的に踊りだしてしま

う瞬間は、何度見ても楽しい。

先日結婚式のパーティーで演奏し

たときは新婦のお父さんが、「ブ

リ」がよく踊りだして人気をさら

っていた。子どもから大人まで、みんな自分から参加して楽しむの

が得意だ。

ミュージシャンになったほかに、私にとって大きな出来事は母

になつたことだ。天真らんまんな

長女7歳と甘え上手な長男4歳と

の日々は目まぐるしい。子ども用

品や学費の高いサンパウロ。ふう

う言いながらも、夫とタッグを

組んで子育てしている。

子どもが生まれて改めて感じる

のは、ブラジル人が子ども好きな

ことだ。子どもをうん連れバス

に乗ろうのなら、席を譲ってくれたり荷物を持ってくれたり、す

ごいチームワークで親切にしてく

れる道を歩けば大きなライフル

を持った警官がニコニコと手を振

ってくれる。そんな風が吹きつけ

る。そう! この感じ!

ウルムチに着陸し早速市内へ向

に向かう。距離は8千ほど、運賃

は45元であった。おんぼろタクシ

ーにはエアコンがなく、窓を開

にして走る。さわやかな風ではな

く、ほり混じりの風が吹きつけ

る。うう! これが秋の感覚!

多くの美術館は公私立を問わず深夜まで開館し、なおかつ無料という最大

の特典が振る舞われる。年によってお

土産付きの館まである。個人アーティ

ストたちは公共の場所で自分の作品を

展示する。いつから定着した催し

が風に吹かれて吹きだまりができる。

巴黎の落ち葉は大半が茶色い枯れ葉で

ある。黄や赤から茶色に変化する落ち葉は少ないようだ。夏から秋に季節が

徐々に移り変わるという風情が薄いよ

うに思う。しかしながらフランスの人たちは、冬は1~3月、春は4~6月、夏は7~9月、秋は10~12月と決まっていると思う。日本人とそつ変わらない季節感である。

10月に秋が始まる訳である。その始まりが「ヌイブロンショ」(白夜)とい

う催しである。10月最初の土曜日の夜、催される。いつから定着した催し

が風に吹かれて吹きだまりができる。

ムスリムらしき人たちが乗つって

て、ウイグル語の放送ハラールを意識した料理と、明らかに普段

利用する国内線の雰囲気とは違つ

つた。それにも中国は広い。

国内線虹橋空港から始まり、午前

7時半、定刻通り離陸しウルムチ

へ6時間、4千キロを東から西へ向

かう。それにも中国は広い。

ムスリムらしき人たちが乗つって

て、ウイグル語の放送ハラールを

意識した料理と、明らかに普段

利用する国内線の雰囲気とは違つ

つた。それにも中国は広い。

ムスリムらしき人たちが乗つって

て、ウイグル語の放送ハラールを

意識した料理と、明らかに普段